

201119072A

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

切除不能局所進行膵がんに対する
標準的化学放射線療法の確立に関する研究

平成 23 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 古 瀬 純 司

平成 24 (2012) 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

切除不能局所進行膵がんに対する
標準的化学放射線療法の確立に関する研究

平成 23 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 古瀬 純司

平成 24 (2012) 年 3 月

目次

I	総括研究報告	
	切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	1
	古瀬 純司	
II	分担研究報告書	
	1. 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	23
	古瀬 純司	
	2. 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	27
	石井 浩	
	3. 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	30
	奥坂 拓志	
	4. 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	37
	福富 晃	
	5. 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	40
	伊藤 芳紀	
	6. 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究.....	43
	中村 聡明	
III	研究成果の刊行に関する一覧表	47
IV	研究成果の刊行物・別刷り	

I. 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総括研究報告書

切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究

研究代表者 古瀬 純司 杏林大学医学部内科学腫瘍科 教授

研究要旨：本研究は、切除不能局所進行膵癌の予後の改善を目指し、化学療法と化学放射線療法を用いたランダム化比較試験を行うことにより、最も効果的な標準治療を確立することを目的とする。第一段階として、より有望な化学放射線療法を選択するため、化学療法後 S-1 化学放射線療法を行う治療と初めから S-1 化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施する。本ランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）は、平成 23 年度 6 月にプロトコールが完成、同年 10 月、JCOG プロトコール審査委員会の承認が得られた。11 月より各施設での倫理委員会の審査が進められ、承認が得られた施設から登録を開始している。

研究分担者

石井 浩	がん研究会 有明病院 消化器内科 副部長	井岡 達也	大阪府立成人病センター 検診部 消化器検診科 副部長
奥坂 拓志	国立がん研究センター中央病院 肝胆膵腫瘍科 副科長	中森 正二	国立病院機構大阪医療センター 総括診療部 部長
福富 晃	静岡県立静岡がんセンター 消化器内科 医長	柳本 泰明	関西医科大学附属枚方病院 肝胆膵外科 助教
宮川 宏之	札幌厚生病院 消化器科 主任部長	井口 東郎	国立病院機構四国がんセンター 臨床研究センター センター長
菱沼 正一	栃木県立がんセンター 外科 副病院長	古川 正幸	国立病院機構九州がんセンター 消化器肝胆膵内科 総括診療部長
長瀬 通隆	自治医科大学 臨床腫瘍部 講師	伊藤 鉄英	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科 准教授
山口 研成	埼玉県立がんセンター 消化器内科 副部長	伊藤 芳紀	国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 医長
山口 武人	千葉県がんセンター 消化器内科 診療部長	中村 聡明	大阪府立成人病センター 放射線腫瘍学 医長
池田 公史	国立がん研究センター東病院 肝胆膵腫瘍科 副科長	横須賀 収	千葉大学大学院医学研究院 腫瘍内科学 教授
大川 伸一	神奈川県立がんセンター 消化器内科 部長	佐野 圭二	帝京大学医学部 外科学講座 教授
田中 克明	横浜市立大学市民総合医療センター 消化器センター 教授	清水 京子	東京女子医科大学 消化器内科 准教授
木田 光広	北里大学東病院 消化器内科 講師	峯 徹哉	東海大学医学部 消化器内科 教授
水野 伸匡	愛知県がんセンター中央病院 消化器内科 医長	東 健	神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学 教授
細川 歩	富山大学附属病院 臨床腫瘍部 講師		

A. 研究目的

切除不能膵癌は、遠隔転移例と局所進展により切除不能な局所進行例に分けられる。遠隔転移例に対する治療はゲムシタピン（GEM）による化学療法が標準治療として確立しているが、局所進行例に対する標準治療は化学療法あるいは化学放射線療法とされ、未だ確立していない。膵癌に有効な薬剤としてGEMとS-1が広く用いられている。S-1はその成分であるギメラシルが放射線増感作用を有することが知られ、放射線との併用がいくつかのがん腫で試みられている。

一方、局所進行膵癌では、治療開始後早期に遠隔転移などの増悪を認め、結果的に化学放射線療法を実施すべきでないと思われる症例が一定頻度で見られる。したがって、GEM化学療法を先行させた後、増悪がない患者に絞って化学放射線療法を行う治療法が有望と考えられる。

本研究では、まず、初めからS-1化学放射線療法を行う治療と導入GEM化学療法後にS-1化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施し、より有望な化学放射線療法を選択する。続いて、選択した化学放射線療法を現在の標準治療であるGEM化学療法とランダム化比較する第Ⅲ相試験を実施し、局所進行膵癌に対する新しい標準治療を確立する。

B. 研究方法

本研究はJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）肝胆膵グループで実施し、次の2段階

で臨床試験を進める。

- 1) S-1併用化学放射線療法と導入GEM化学療法後S-1併用化学放射線療法とのランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106試験）により、より有望な化学放射線療法を選択する。
- 2) GEM化学療法の標準的治療と1)のランダム化第Ⅱ相試験で選択した治療法との第Ⅲ相試験を行う。

JCOG1106試験の概要は次の通りである。

【ランダム化第Ⅱ相試験】

1) 目的と試験デザイン

S-1放射線療法と導入GEM+S-1放射線療法の有効性と安全性を評価し、より有望な治療法を選択する。主要評価項目は全生存期間である。JCOGデータセンターによる中央登録方式により実施する。

2) 対象症例

膵腫瘍からの組織生検あるいは細胞診により腺癌が確認され、画像診断により遠隔転移がなく、腹腔動脈幹もしくは上腸間膜動脈への浸潤のために切除不能と診断される局所進行膵癌、原発巣と転移リンパ節が呼吸性移動を含めて10cm×10cm以内の照射野に含まれる症例を対象とする。20歳以上80歳以下、PS 0または1、主要臓器機能が保たれている症例で、試験参加について患者本人から文書で同意を得る。

3) 治療法

A群：S-1放射線療法

放射線療法は1回1.8Gy、28回照射、計50.4Gyを照射する。S-1は80mg/m²を照射日

のみ朝夕に分けて内服する。

B 群：導入 GEM+S-1 放射線療法

GEM は 1 回 1000mg/m²/day、30 分点滴静注、週 1 回、3 週投与 1 週休薬を 1 サイクルとして、3 サイクル実施する。その後 28 日以内に、A 群と同様の化学放射線療法を開始する。

A, B 群共通：S-1 併用化学放射線療法終了後、維持療法として標準治療である GEM 化学療法を増悪もしくは忍容できない毒性出現まで行う。

4) 統計学的考察

臨床的仮説を「導入 GEM+S-1 放射線療法群が生存曲線のハザード比の点推定値で上回る場合(導入 GEM+S-1 放射線療法群の S-1 放射線療法群に対するハザード比が 1 未満である場合)、あるいは、点推定値で劣っていてもその程度がわずかである場合(ハザード比が 1.1858 以下である場合 [1 年生存割合の差が 5%以内であることに相当])、導入 GEM+S-1 放射線療法を有望な治療法である」とした場合、80%以上の確率で正しい選択が行えるには、Simon の選択デザイン変法に基づいて、必要適格例数は 1 群 49 例となる。若干の不適格例を見込んで両群計 100 例と設定した。

予定症例数 100 例、登録期間 2 年、追跡期間 1 年。

(倫理面への配慮)

本研究では、切除不能膵癌という極めて予後不良な疾患を対象とし、化学療法と化学放射線療法という異なる治療手段を用いた臨床試験を実施することから、

まずランダム化第 II 相試験を慎重に行い、有効性と安全性を評価した上で、より有望な治療を選択し、最終的に第 III 相試験を実施することとした。

参加患者の安全性確保については、適格条件やプロトコール治療の中止変更規準を厳しく設け、試験参加による不利益を最小化する。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的倫理原則に従い以下を遵守する。

- 1) 研究実施計画書に対する倫理審査委員会の承認が得られた施設のみから患者登録を行う。
- 2) すべての患者について登録前に十分な説明と理解に基づく自発的同意を本人より文書で得る。
- 3) データの取り扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保し、個人情報(プライバシー)保護を厳守する。
- 4) 研究の第三者的監視：JCOG (Japan Clinical Oncology Group) は国立がん研究センターがん研究開発費指定研究 6 班 (20 指・1~6) を中心に、同計画研究班および厚生労働科学研究費がん臨床研究事業研究班、合計 33 研究班の任意の集合体であり、JCOG に所属する研究班は共同で、Peer review と外部委員審査を併用した第三者的監視機構としての各種委員会を組織し、科学性と倫理性の確保に努めてい

る。本研究も、JCOG のプロトコール審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会、放射線治療委員会などによる第三者的監視を受けることを通じて、科学性と倫理性の確保に努める。

C. 研究結果

本年度は導入 GEM 化学療法の有無による S-1 併用放射線療法のランダム化第Ⅱ相試験 (JCOG1106 試験) の研究を進めた。2011 年 10 月 14 日、JCOG プロトコール審査委員会の承認が得られ、11 月より参加各施設での倫理委員会の審査に入った。2012 年 2 月現在、15 施設が登録可能となり、現在、3 例が登録されている。

D. 考察

切除不能膵癌のうち、一般に遠隔転移例および局所進行例の生存期間 (OS) 中央値はそれぞれ 6 ヶ月、10-12 ヶ月程度とされ、満足できるものではない。遠隔転移例に対する治療は GEM による化学療法が標準治療として確立しているが、局所進行例に対する標準治療は化学療法あるいは化学放射線療法とされ、未だ確立していない。これまで局所進行膵癌に対する GEM 化学療法と化学放射線療法との比較試験は国外で 2 本実施され、相反する結果であったことから、その優劣について一定のコンセンサスは得られていない。我々は、GEM 化学療法の治療成績を確認するため、第Ⅱ相試験 (JCOG0506) を行ったところ、OS 中央値 15 ヶ月と良好な成績が得られたことから、

現状では GEM 化学療法が標準治療として認識されている。しかし、放射線療法の併用により長期生存の改善も期待されており、新しい化学放射線療法の開発が望まれている。

わが国と台湾の共同試験として、切除不能膵癌に対する GEM、S-1、GEM+S-1 併用 (GS) の 3 群による大規模な比較試験 (GEST 試験) が実施された。その結果、奏効率は GEM13%、S-1 21%、GS29%、無増悪生存期間 (PFS) 中央値は GEM4.1 ヶ月、S-1 3.8 ヶ月、GS5.7 ヶ月、OS 中央値は GEM8.8 ヶ月、S-1 9.7 ヶ月、GS10.1 ヶ月であり、GEM に対する S-1 の非劣性が証明されたが、GS の優越性は証明されなかった。S-1 は GEM と同等の有用性が得られ、標準治療の一つとして位置づけられている。さらに放射線との併用でも高い忍容性が得られており、第Ⅱ相試験では OS 中央値 16.2 ヶ月と良好な治療成績が得られている。

一方、局所進行膵癌では、治療開始後早期に遠隔転移などの増悪を認め、結果的に化学放射線療法を実施すべきでないと思われる症例が一定頻度で見られる。したがって、GEM 化学療法を先行させた後、増悪がない患者に絞って化学放射線療法を行う治療法がリスク/ベネフィットバランスから有望と考えられる。現在、国際的にも局所進行膵癌の治療は一定のコンセンサスが得られておらず、本研究の成果は世界の膵癌治療の確立につながるものと期待される。

本研究では、放射線専門医による放射

線治療の品質保証活動(QA/QC)を施行し、治療の質の担保に努める。また、本研究を通じて、膵癌に対する放射線治療の標準化、均てん化が進むことも期待できる。また、化学療法を先行させることの有用性が確認されれば、毒性の強い化学放射線療法を適切な患者のみに実施することが可能となり、患者のみならず医療業務や医療経済上も効率的かつ有効な治療戦略に基づいた標準治療が確立できるものと考えられる。

E. 結論

局所進行膵癌に対する標準治療確立に向けて、第一ステップとして最良の化学放射線療法を選択するため、S-1 併用化学放射線療法と導入GEM化学療法後S-1併用化学放射線療法とのランダム化第II相試験(JCOG1106試験)を開始した。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Yamao K, Funakoshi A, Boku N, Ohkawa S, Yokosuka O, Tanaka K, Moriyasu F, Nakamori S, Sato T. Multicenter phase II study of gemcitabine and S-1 combination therapy (GS Therapy) in patients with metastatic pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol* 2011;41(8):953-8.
2. Kindler HL, Ito T, Richel DJ, Bennouna J, Létourneau R, Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Park YS, Ohkawa S, Springett GM, Wasan HS, Trask PC, Bycott P, Ricart AD, Kim S, Van Cutsem E. Axitinib plus gemcitabine versus placebo plus gemcitabine in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma: a double-blind randomised phase 3 study. *Lancet Oncol* 2011;12(3):256-62.
3. Okusaka T, Furuse J, Funakoshi A, Ito T, Yamao K, Ohkawa S, Boku N, Komatsu Y, Nakamori S, Iguchi H, Ito T, Nakagawa K, Nakachi K. Phase II study of erlotinib plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable pancreatic cancer. *Cancer Sci* 2011;102(2):425-31.
4. Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, Ikeda M, Furuse J, Shinichi O, Nakachi K, Mitsunaga S, Kojima Y, Suzuki E, Ueno M, Yamaguchi T. Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2011 Nov 26. [Epub ahead of print]
5. Okusaka T, Ueno H, Ikeda M, Morizane C. A phase I and pharmacokinetic clinical trial of oral administration of the acyclic retinoid NIK-333. *Hepatology Research*, 2011,41(6):542-552.
6. Morizane C, Okusaka T, Morita S, Tanaka K, Ueno H, Kondo S, Ikeda M, Nakachi K, Mitsunaga S. Construction and validation of a prognostic index for patients with metastatic pancreatic adenocarcinoma. *Pancreas*, 2011,40(3):415-421.
7. Yao JC, Shah MH, Ito T, Bohas CL, Wolin EM, Cutsem EV, Hobday TJ, Okusaka T, Capdevila J, E de Vries EG, Tomassetti P, Pavel ME, Hoosen S, Haas T, Lincy J, Lebwohl D, Oberg K, for the RAD001 in Advanced Neuroendocrine Tumors, Third Trial (RADIANT-3) Study Group. Everolimus for Advanced Pancreatic Neuroendocrine Tumors. *New Eng J Med*, 2011,364(6): 514-523.
8. Kindler H, Ito T, Richel D, Bennouna J, Letourneau R, Okusaka T, Funakoshi , Furuse J, Park YS, Ohkawa S, Springett GM, Wasan HS, Trask PC, Bycott P, Ricart AD, Kim S, Custem E. Axitinib plus gemcitabine versus placebo plus gemcitabine in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma: a double-blind randomized phase 3 study. *Lancet Oncol*, 2011,12(3):256-262.
9. Matsubara J, Honda K, Ono M, Tanaka Y, Kobayashi M, Jung G, Yanagisawa K, Sakuma T, Nakamori S, Sata N, Nagai H,

- Ioka T, Okusaka T, Kosuge T, Tsuchida A, Shimahara M, Yasunami Y, Chiba T, Hirohashi S, Yamada T. Reduced plasmas level of CXC chemokine ligand 7 in patients with pancreatic cancer. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 2011,20(1):160-171.
10. Kaida M, Morita-Hoshi Y, Soeda A, Wakeda T, Yamaki Y, Ueno H, Kondo S, Morizane C, Ikeda M, Okusaka T, Takaue Y, Heike Y. Phase I trial of wilms tumor 1 (WT1) peptide vaccine and gemcitabine combination therapy in patients with advanced pancreatic or biliary tract cancer. *J Immunother*, 2011,34(1):92-99.
 11. Murakoshi Y, Honda K, Sasazuki S, Ono M, Negishi A, Matsubara J, Sakuma T, Kuwabara H, Nakamori S, Sata N, Nagai H, Ito T, Okusaka T, Kosuge T, Shimahara M, Yasunami Y, Ino Y, Tsuchida A, Aoki T, Tsugane S, Yamada T. Plasma biomarker discovery and validation for colorectal cancer by quantitative shotgun mass spectrometry and protein microarray. *Cancer Sci*, 2011,102(3):630-638.
 12. Morofuji N, Ojima H, Onaya H, Okusaka T, Shimada K, Sakamoto K, Esaki M, Nara S, Kosuge T, Asahina D, Ushigome M, Hiraoka N, Nagino M, Kondo T. Macrophage-capping protein as a tissue biomarker for prediction of response to gemcitabine treatment and prognosis in cholangiocarcinoma. *J Proteomics*, 2011, in press.
 13. Egawa S, Toma H, Ohigashi H, Okusaka T, Nakao A, Hatori T, Maguchi H, Yanagisawa A, Tanaka M. Classification of pancreatic cancer: validation using nation-wide registry of Japan pancreas society. Editor Watanabe HS. In: *Horizons in Cancer Research*. 2011, Vol.46, in press. Nova Science Publishers, Inc. Japan.
 14. Ozaka M, Matsumura Y, Ishii H, Omuro Y, Itoi T, Mouri H, Hanada K, Kimura Y, Maetani I, Okabe Y, Tani M, Ikeda T, Hijioka S, Watanabe R, Ohoka S, Hirose Y, Suyama M, Egawa N, Sofuni A, Ikari T, Nakajima T. Randomized phase II study of gemcitabine and S-1 combination versus gemcitabine alone in the treatment of unresectable advanced pancreatic cancer (Japan Clinical Cancer Research Organization PC-01 study). *Cancer Chemother Pharmacol*. 2012 Jan 17. [Epub ahead of print]
 15. Yukisawa S, Ishii H, Matsuyama M, Kuraoka K, Takano K, Kamei A, Ozaka M. Outcomes and tolerability of systemic chemotherapy for pancreatic or biliary cancer patients aged 75 years or older. *Jpn J Clin Oncol*. 2011 Jan;41(1):76-80.
 16. Ogawa K, Karasawa K, Ito Y, Ogawa Y, Jingu K, Onishi H, Aoki S, Wada H, Kokubo M, Ogo E, Etoh H, Kazumoto T, Takayama M, Nemoto K, Nishimura Y; JROSG Working Subgroup of Gastrointestinal Cancers. Intraoperative Radiotherapy for Unresectable Pancreatic Cancer: A Multi-institutional Retrospective Analysis of 144 Patients. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*: 80, 111-118, 2011.
 17. Ogawa K, Ito Y, Hirokawa N, Shibuya K, Kokubo M, Ogo E, Shibuya H, Salto T, Onishi H, Karasawa K, Nemoto K, Nishimura Y; Japanese Radiation Oncology Study Group Working Subgroup of Gastrointestinal Cancers. Concurrent Radiotherapy and Gemcitabine for Unresectable Pancreatic Adenocarcinoma: Impact of Adjuvant Chemotherapy on Survival. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*. In press.
 18. Furukawa M, Lee L, Ikegami T, Maeda T, Nishiyama K, Itaba S, Funakoshi A. Giardiasis in the pancreas accompanied by pancreatic cancer. *Pancreas*. 2011 40: 168-169.
 19. Kawai M, Kondo S, Yamaue H, Wada K, Sano K, et al. Predictive risk factors for clinically relevant pancreatic fistula analyzed in 1,239 patients with pancreaticoduodenectomy: multicenter data collection as a project study of pancreatic surgery by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2011;18:601-8.
 20. Sudo K, Yamaguchi T, Nakamura K, Denda T, Hara T, Ishihara T, Yokosuka O. Phase II study of S-1 in patients with gemcitabine-resistant advanced pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2011;67(2):249-254.

21. Sudo K, Yamaguchi T, Ishihara T, Nakamura K, Hara T, Denda T, Tawada K, Imagumbai T, Araki H, Sakai M, Hatano K, Kawakami H, Uno T, Ito H, Yokosuka O. Phase II study of oral S-1 and concurrent radiotherapy in patients with unresectable locally advanced pancreatic cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys.*2011;80(1):119-25.
22. Matsuyama M, Kondo F, Ishihara T, Yamaguchi T, Ito R, Tsuyuguchi T, Tawada K, Yokosuka O. Evaluation of pancreatic intraepithelial neoplasia and mucin expression in normal pancreata. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2011 Jun 7. [Epub ahead of print]
23. Yamao K, Yanagisawa A, Takahashi K, Kimura W, Doi R, Fukushima N, Ohike N, Shimizu M, Hatori T, Nobukawa B, Hifumi M, Kobayashi Y, Tobita K, Tanno S, Sugiyama M, Miyasaka Y, Nakagohri T, Yamaguchi T, Hanada K, Abe H, Tada M, Fujita N, Tanaka M. Clinicopathological features and prognosis of mucinous cystic neoplasm with ovarian-type stroma: a multi-institutional study of the Japan pancreas society. *Pancreas.* 2011;40(1):67-71.
24. Maguchi H, Tanno S, Mizuno N, Hanada K, Kobayashi G, Hatori T, Sadakari Y, Yamaguchi T, Tobita K, Doi R, Yanagisawa A, Tanaka M. Natural history of branch duct intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: a multicenter study in Japan. *Pancreas.* 2011;40(3):364-370.
25. Takahashi S, Kinoshita T, Konishi M, Gotohda N, Kato Y, Kinoshita T, Kobayashi T, Mitsunaga S, Nakachi K, Ikeda M. Borderline resectable pancreatic cancer: rationale for multidisciplinary treatment. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2011 Jul; 18(4):567-74.
26. Ikura Y, Mita E, Nakamori S. Hepatocellular carcinomas can develop in simple fatty livers in the setting of oxidative stress. *Pathology* 2011; 43(2): 167-168.
27. Masuda H, Masuda N, Kodama Y, Ogawa M, Karita M, Yamamura J, Tsukuda K, Doihara H, Miyoshi S, Mano M, Nakamori S, Tsujinaka T. Predictive factors for the effectiveness of neoadjuvant chemotherapy and prognosis in triple-negative breast cancer patients. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2011; 67(4): 911-917.
28. Ogawa H, Tsujie M, Miyamoto A, Yasui M, Ikenaga M, Hirao M, Fujitani K, Mishima H, Tsujinaka T, Nakamori S. Isolated pancreatic metastasis from uterine cervical cancer: a case report. *Pancreas* 2011; 40(5): 797-798.
29. Kubota M, Murakami T, Nagano H, Eguchi H, Marubashi S, Kobayashi S, Wada H, Tanemura M, Dono K, Nakamori S, Sakon M, Monden M, Mori M, Doki Y. Xenon-inhalation computed tomography for noninvasive quantitative measurement of tissue blood flow in pancreatic tumor. *Dig Dis Sci* . 2011, in press.(SEP28 [Epub ahead of print])
30. Matsubara J, Honda K, Ono M, Sekine S, Tanaka Y, Kobayashi M, Jung G, Sakuma T, Nakamori S, Sata N, Nagai H, Ito T, Okusaka T, Kosuge T, Tsuchida A, Shimahara M, Yasunami Y, Chiba T, Yamada T. Identification of adipophilin as a potential plasma biomarker for colorectal cancer using label-free quantitative mass spectrometry and protein microarray. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev* 2011; 20(10) 2195–2203.
31. Kida M, Araki M, Miyazawa S, Ikeda H, Takezawa M, Kikuchi H, Watanabe M, Imaizumi H, Koizumi W.: Comparison of diagnostic accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration with 22- and 25-gauge needles in the same patients. *j interv Gastroenterol* 1:3, 102-107, 2011.
32. Kida M, Araki M, Miyazawa S, Ikeda H, Kikuchi H, Watanabe M, Imaizumi H, Koizumi W.: Fine needle aspiration using forward-viewing endoscopic ultrasonography. *Endoscopy*, 43(9):796-801, 2011.
33. Kida M, Miyazawa S, Iwai T, Ikeda H, Takezawa M, Kikuchi H, Watanabe M, Imaizumi H, Koizumi W.: Endoscopic management of malignant biliary obstruction by means of covered metallic stents:primary stent placement vs.re-intervention. *Endoscopy*,

- 43(12):1039-44, 2011.
34. Kikuchi H, Kida M, Iwai T, Miyazawa S, Takezawa M, Imaizumi H, Koizumi W. Biweekly gemcitabine with S-1 combination chemotherapy in locally advanced or metastatic pancreatic cancer. *The Kitasato Medical Journal* 2011, 41:154-159, 2011.
 35. Isayama H, Yasuda I, Ryozaawa S, Maguchi H, Igarashi Y, Matsuyama Y, Katanuma A, Hasebe O, Irisawa A, Itoi T, Mukai H, Arisawa Y, Okushima K, Uno K, Kida M, Tamada K.: Results of a Japanese multicenter, randomized trial of endoscopic stenting for non-resectable pancreatic head cancer (JM-TEST): covered wallstent versus doublelayer stent. *Dig Endosc*, 23(4):310-315, 2011.
 36. Fukutomi A, Hatake K, Matsui K, Sakajiri S, Hirashima T, Tani H, Kobayashi K, Yamamoto N. A phase I study of oral panobinostat (LBH589) in Japanese patients with advanced solid tumors. *Invest New Drugs*. 2011 Apr 12. [Epub ahead of print]
 37. Matsubara J, Honda K, Ono M, Tanaka Y, Kobayashi M, Jung G, Yanagisawa K, Sakuma T, Nakamori S, Sata N, Nagai H, Ito T, Okusaka T, Kosuge T, Tsuchida A, Shimahara M, Yasunami Y, Chiba T, Hirohashi S, Yamada T. Reduced plasma level of CXCL chemokine ligand 7 in patients with pancreatic cancer. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev* 2011; 20(1):160-171.
 38. Sudo K, Yamaguchi T, Ishihara T, Nakamura K, Hara T, Denda T, Tawada K, Imagunbai T, Araki H, Sasaki M, Hatano K, Kawakami H, Uno T, Ito H, Yokosuka O. Phase II study of oral S-1 and concurrent radiotherapy in patients with unresectable locally advanced pancreatic cancer: *Int J Radiation Oncology Biol Phys* 2011;80:119-125.
 39. Ogasawara S, Kanai F, Obi S, Sato S, Yamaguchi T, Azemoto R, Mizumoto H, Koushima Y, Morimoto N, Hirata N, Toriyabe T, Shinozaki Y, Ooka Y, Mikata R, Chiba T, Okabe S, Imazeki F, Yoshikawa M, Yokosuka O. Safety and tolerance of sorafenib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma. *Hepatol Int* 2011;5(3):850-6.
 40. Igarashi H, Ito T, Hisano T, Fujimori N, Niina Y, Yasuda M, Kaku T, Matsuo S, Oono T, Yoshinaga M, Sakai H, Takayanagi R. Paclitaxel-Based Chemotherapy for Advanced Pancreatic Cancer after Gemcitabine-Based Therapy Failure: Case series of five patients. *Case Rep Oncol* 2011; 4:534-541.
 41. Niina Y, Fujimori N, Nakamura T, Igarashi H, Oono T, Nakamura K, Kato M, Jensen RT, Ito T, Takayanagi R. Pancreatic Neuroendocrine Tumors in Patients with Multiple Endocrine Neoplasia Type 1. *Gut Liver*, in press
 42. Ohtsuka T, Kono H, Tanabe R, Nagayoshi Y, Mori Y, Sadakari Y, Takahata S, Oda Y, Aishima S, Igarashi H, Ito T, Ishigami K, Nakamura M, Mizumoto K, Tanaka M. Follow-up study after resection of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas; special references to the multifocal lesions and development of ductal carcinoma in the remnant pancreas. *Am J Surg*. 2011 Oct 12. [Epub ahead of print]
 43. Ohtsuka T, Kono H, Nagayoshi Y, Mori Y, Tsutsumi K, Sadakari Y, Takahata S, Morimatsu K, Aishima S, Igarashi H, Ito T, Ishigami K, Nakamura M, Mizumoto K, Tanaka M. An increase in the number of predictive factors augments the likelihood of malignancy in branch duct intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Surgery*. 2011 Aug 27. [Epub ahead of print]
 44. Yao JC, Ito T, Öberg K. Advances in pancreatic neuroendocrine tumor treatment. Correspondence; Baseline factors affecting blood glucose in the phase III study of everolimus among pancreatic neuroendocrine tumors. *N Engl J Med* 2011;364(19):1871-75.
 45. Kawabe K, Ito T, Okano S. Simultaneous double cancers in the pancreas. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2011;9(7):A40.
 46. Fujita H, Ohuchida K, Mizumoto K, Itaba S, Ito T, Nakata K, Yu J, Kayashima T, Hayashi A, Souzaki R, Tajiri T, Onimaru M, Manabe T, Ohtsuka T, Tanaka M. High EGFR mRNA expression is a prognostic factor for reduced survival in pancreatic cancer after gemcitabine-based adjuvant chemotherapy. *Int J Oncol*

- 2011;38(3):629-41
47. Ojeaburu JV, Ito T, Crafa P, Bordi C, Jensen RT. Mechanism of Acid Hypersecretion Post-Curative Gastrinoma Resection. *Dig Dis Sci* 2011;56(1):139-54.
 48. Mizuno N, Hara K, Hijioaka S, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K. Current concept of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic cancer. *Pancreatol* 2011;11 Suppl 2:40-6.
 49. Nakao M, Matsuo K, Hosono S, Ogata S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Iida S, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H. ABO blood group alleles and the risk of pancreatic cancer in a Japanese population. *Cancer Sci* 2011;102:1076-1080.
 50. Hijioaka S, Matsuo K, Mizuno N, Hara K, Mekky MA, Vikram B, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Kondo S, Tajika M, Niwa Y, Tamada K, Yamao K. Role of Endoscopic Ultrasound and Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration in Diagnosing Metastasis to the Pancreas: A Tertiary Center Experience. *Pancreatol* 2011;11:390-398.
 51. Yamao K, Hara K, Mizuno N, Sawaki A, Hijioaka S, Niwa Y, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V. EUS-Guided Biliary Drainage. *Gut Liver* 2011;4:S67-S75.
 52. Hara K, Yamao K, Niwa Y, Sawaki A, Mizuno N, Hijioaka S, Tajika M, Kawai H, Kondo S, Kobayashi Y, Matsumoto K, Bhatia V, Shimizu Y, Ito A, Hirooka Y, Goto H. Prospective Clinical Study of EUS-Guided Choledochoduodenostomy for Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. *Am J Gastroenterol* 2011;106(7):1239-45.
 53. Yoshida M, Hatano N, Nishiumi S, Iino Y, Izumi Y, Takenawa T, Azuma T. Diagnosis of gastroenterological diseases by metabolome analysis using gas chromatography-mass spectrometry. *J Gastroenterol*, in press
 54. Hirooka S, Yanagimoto H, Sato S, Yamamoto T, Toyokawa H, Yamaki S, Yui R, Inoue K, Michiura T, Kwon AH. The role of circulating dendritic cells in patients with unresectable pancreatic cancer. *Anticancer Res* 2011;31(11):3827-34.
 55. Sato S, Yanagimoto H, Toyokawa H. Use of the new ultrasonically curved shear in pancreaticoduodenectomy for periampullary cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2011;18(4):609-14.
 56. Sato S, Yanagimoto H, Toyokawa H, Inoue K, Wada K, Yamamoto T, Hirooka S, Yamaki S, Yui R, Mergental H, Kwon AH. Selective use of staging laparoscopy based on carbohydrate antigen 19-9 level and tumor size in patients with radiographically defined potentially or borderline resectable pancreatic cancer. *Pancreas* 2011;40(3):426-32.
 57. Sato S, Toyokawa H, Yanagimoto H, Yamamoto T, Hirooka S, Yui R, Yamaki S, Matsui Y, Mergental H, Kwon AH. Reinforcement of pancreaticojejunostomy using polyglycolic acid mesh and fibrin glue sealant. *Pancreas* 2011;40(1):16-20.
 58. Yoshida K, Noguchi M, Mine T, Komatsu N, Yutani S, Ueno T, Yanagimoto H, Kawano K, Itoh K, Yamada A. Characteristics of severe adverse events after peptide vaccination for advanced cancer patients: Analysis of 500 cases. *Oncol Rep* 2011;25(1):57-62.
 59. Noguchi M, Mine T, Komatsu N, Suekane S, Moriya F, Matsuoka K, Yutani S, Shichijo S, Yamada A, Toh U, Kawano K, Azuma K, Uemura H, Okuno K, Matsumoto K, Yanagimoto H, Yamanaka R, Oka M, Todo S, Sasada T, Itoh K. Assessment of immunological biomarkers in patients with advanced cancer treated by personalized peptide vaccination. *Cancer Biol Ther* 2011;10(12):1266-79.
 60. Tomonori Ohsawa, Tomoko Sahara, Shino Muramatsu, Yoji Nishimura, Toshimasa Yatsuoka, Yoichi Tanaka, Yamaguchi K, Hideyuki Ishida and Kiwamu Akagi. Colorectal cancer susceptibility associated with hMLH1 V384D variants. *Mol Med Report*. 2009 Nov-Dec;2(6):887-91. doi: 10.3892/mmr_00000187.
 61. Kato K, Chin K, Yoshikawa T, Yamaguchi K, Tsuji Y, Esaki T, Sakai K, Kimura M, Hamaguchi T, Shimada Y, Matsumura Y, Ikeda R. Phase II study of

- NK105, a paclitaxel-incorporating micellar nanoparticle, for previously treated advanced or recurrent gastric cancer. Invest New Drugs 2011 Jul 5. [Epub ahead of print]
62. Satoh T, Yamaguchi K, Boku N, Okamoto W, Shimamura T, Yamazaki K, Shi X, Mishima H. Phase I results from a two-part Phase I/II study of cediranib in combination with mFOLFOX6 in Japanese patients with metastatic colorectal cancer. Invest New Drugs 2011 May 25. [Epub ahead of print]
 63. Kato T, Muro K, Yamaguchi K, Bando H, Hazama S, Amagai K, Baba H, Denda T, Shi X, Fukase K, Sakamoto J, Mishima H. Cediranib in combination with mFOLFOX6 in Japanese patients with metastatic colorectal cancer: results from the randomised phase II part of a phase I/II study. Ann Oncol 2011 Aug 9. [Epub ahead of print]
 64. Imai K, Matsubayashi H, Fukutomi A, Uesaka K, Sasaki K, Ono H. Endoscopic ultrasonography-guided fine needle aspiration biopsy using 22-gauge needle in diagnosis of autoimmune pancreatitis. Dig Liver Dis. 2011;43(11):869-74.
 65. Furukawa T, Kuboki Y, Tanji E, Yoshida Y, Hatori T, Yamamoto M, Shibata N, Shimizu K, Kamatani N, Shiratori K. Whole-exome sequencing uncovers frequent GNAS mutations in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. Scientific reports 1 : 161 | Doi: 10.1038/srep00161, 2011.
 66. 古瀬 純司, 北村浩, 廣川智, 長島文夫. がん化学療法の進歩. 臓器別がん治療. 膵がん・胆道がん. 化学療法の領域 27(S-1):152-159, 2011.
 67. 古瀬純司. 膵・胆道癌. 外来癌化学療法 2(3): 21-25, 2011.
 68. 奥坂拓志, 上野秀樹, 森実千種, 近藤俊輔. 膵内分泌腫瘍の治療 薬物療法. VII. 膵内分泌腫瘍. 日本臨床, 2011, 69(増刊2):617-620.
 69. 奥坂拓志, 森実千種, 池田公史. 消化器神経内分泌腫瘍の薬物治療の動向. 内分泌外科, 28(2), 2011 印刷中
 70. 奥坂拓志. わが国における国際共同臨床試験(企業治験および研究者主導試験)の現状と問題点4)肝胆膵がん. 特集国際共同臨床試験の現状と問題点. 腫瘍内科, 2011, 7(3):263-268.
 71. 奥坂拓志, 森実千種, 池田公史. 膵神経内分泌腫瘍(pNET)に対する化学療法・分子標的治療. 特集 膵神経内分泌腫瘍(pNET)の診断と治療の新しい展開. 胆と膵, 2011, 32(3):227-233.
 72. 奥坂拓志, 山口幸二. 切除不能膵癌に対する化学療法 最新情報. 胆と膵, 2011, 32(4):323-331.
 73. 奥坂拓志, 森実千種, 池田公史. 消化器神経内分泌腫瘍の薬物治療の動向. 特集 消化器神経内分泌腫瘍(GEP-NET):基礎から臨床までの最前線. 内分泌外科, 2011, 28(2):98-107.
 74. 奥坂拓志. 膵神経内分泌腫瘍における新規治療の展望. 特集 膵神経内分泌腫瘍 - Update 2011. 肝胆膵, 2011, 63(2):327-331.
 75. 奥坂拓志. 座談会. 膵癌治療のこれから - これまでの10年を振り返って. 膵・胆道癌 FRONTIER, 2011, 1(1):4-13.
 76. 奥坂拓志. IV. 薬物療法の進歩. Liver, Pancreas, Biliary Tract Cancer. 肝・胆・膵癌. 膵神経内分泌腫瘍 2011 Update. 癌と化学療法, 2011, 38(10):1613-1618.
 77. 奥坂拓志. 膵がん・胆道がんの治療 - ゲムシタピンから分子標的治療薬まで. 化学療法アップデート. 日経メディカル Cancer Research, 2011, 25:39-43.
 78. 上野秀樹, 奥坂拓志. 5. 切除不能膵癌の治療. (3)化学療法. 特集 膵癌の診断と治療 2011~2013. コンセンサスがん治療, 2011, 10(3):154-158.
 79. 森実千種, 奥坂拓志. 神経内分泌腫瘍の化学療法. - 悪性度別の治療選択. 特集 消化器癌化学療法 2011 - 最近の話題. 臨床消化器内科, 2011, 26(6):697-702.
 80. 山口智宏, 上野秀樹, 奥坂拓志. 膵癌③進行・再発(切除不能を含む)治療. 特集 外科医のための最新癌薬物療法 I 章 臓器別薬物療法. 臨床外科, 2011, 11(増刊号):225-230.

81. 大塚大河、上野秀樹、奥坂拓志. 進行膵癌に対する分子標的治療・ワクチン治療. 臨床消化器内科, 2011, 26(1):109-116.
82. 谷山智子、上野秀樹、奥坂拓志. 切除不能膵がんに対して、どのような治療があるのでしょうか? 患者・家族の相談に答えるがん診療サポートガイド. 治療, 2011, 93(4月増刊号):942-944.
83. 池田公史、仲地耕平、光永修一、上野秀樹、森実千種、近藤俊輔、奥坂拓志. 全身化学療法 of 進歩. 消化器外科, 2011, 34(7):1069-1076.
84. 奥坂拓志. 膵がん. 早期発見・早期治療のためのがん部位別基礎講座. ヘルスアンドライフ2月号, 2012, 第3274号.
85. 上野秀樹、奥坂拓志. 4. 内科治療の進歩. I. 膵癌. 特集 膵腫瘍: 診断と治療の進歩. 日本内科学会雑誌, 2012, 101(1):29-36.
86. 坂本康成、上野秀樹、奥坂拓志. 膵胆道癌化学療法の最前線. 胆・膵疾患診療の最前線・治療/最新の治療戦略とその成果-病診連携のために-. Medical Practice, 2012, 29(1):140-144.
87. 奥坂拓志. 3. Chemotherapy/インターフェロン治療成績. VII 内科治療. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診断・治療実践マニュアル. 今村正之総監修. 田中雅夫、平田公一編集. 総合医学社. 東京. 2011年 pp153-163
88. 奥坂拓志. 新規治療の展望. IX NET治療の今後の展望. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診断・治療実践マニュアル. 今村正之総監修. 田中雅夫、平田公一編集. 総合医学社. 東京. 2011年 pp204-209
89. 上野秀樹、奥坂拓志. 膵がんでの臨床試験デザイン. 抗がん剤の開発戦略と承認申請のポイント. 抗がん剤の開発戦略と承認申請のポイント. 技術情報協会. 東京. 2011年2月. P27-35
90. 中村聡明. 膵癌治療における放射線療法の役割と課題. 胆と膵 32(4):319-322, 2011
91. 松本俊彦, 竹治 智, 浅木彰則, 梶原猛史, 仁科智裕, 堀伸一郎, 池田宜央, 灘野成人, 井口東郎. 高度肝転移をともなった膵癌に対する Gemcitabine/テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤(S-1)併用療法の治療成績. 日本消化器病学会雑誌 108:2003-2009, 2011.
92. 井口東郎. 膵がんの治療戦略: 分子標的薬剤の位置づけ. 腫瘍内科 7:153-161, 2011
93. 李 倫學、古川正幸、船越顕博. 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) 術前診断における FDG-PET 有用性の検討. 膵臓. 2011 26:583-588.
94. 久保宏明、渡邊龍之、古川正幸、岩尾真孝、田中 誠、松本正広、田中 晃. 直腸全周性狭窄を来した前立腺癌と直腸癌の重複癌の1例. Gastroenterological Endoscopy. 2011 53: 296-301.
95. 古川正幸、船越顕博. 高齢者膵癌の臨床的特徴-生活習慣の観点から膵癌の発癌制御は可能か-. 消化と吸収. 2011 33: 271-280.
96. 奥村幸彦、杉本理恵、田口健一、李 倫學、植田圭二郎、古川正幸、船越顕博. 多発性肝腫瘍を契機にカルチノイドと診断治療され8年5か月生存し得た膵原発高文化型神経内分泌癌の1例. がんと化学療法 2011 38:1043-1047.
97. 古川正幸. 高齢者膵癌の臨床的特徴-発癌制御は可能か. 消化器内科. 2011 53(3): 240-246
98. 須藤研太郎、中村和貴、原太郎、廣中秀一、傳田忠道、中村奈海、相馬寧、北川善康、三梨桂子、山口武人. ジェムザール, TS-1 の特徴. 肝胆膵 64(2):195-200.
99. 亀田 亮、大川伸一、上野誠、小林智、柳田直毅. 悪性十二指腸狭窄に対する内視鏡的十二指腸ステント (Wallflex Duodenal Stent) の使用経験, Progress of Digestive Endoscopy, 78(2) 45-48, 2011.
100. 亀田 亮、小林智、上野誠、宮川薫、大川伸一、山本直人、森永聡一郎、龜

- 田陽一. Gemcitabine 療法施行後に根治切除を行い組織学的に著明な抗腫瘍効果が確認された一例. 膵臓. 26(4) 531-537, 2011
101. 松林宏行, 上坂克彦, 金本秀行, 福富晃, 戸高明子, 山崎健太郎, 木村公一, 田中雅樹, 角嶋直美, 滝沢耕平, 山口裕一郎, 小野裕之. 膵癌危険因子としての膵癌家族歴と遺伝性症候群. 肝・胆・膵 62巻3号:539-545, 2011.
102. 福富晃. 切除不能膵がんにおけるゲムシタビンを含まない薬物療法の可能性. 腫瘍内科7巻2号:162-168, 2011.
103. 中村和彦, 伊藤鉄英. (株)総合医学社 / 凸版印刷株式会社. (監修) 今村正之 (編) 田中雅夫・平田公一. VII 内科治療. 4 内視鏡的治療. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診断・治療 実践マニュアル 2011. 173-184
104. 五十嵐久人, 伊藤鉄英. (株)総合医学社 / 凸版印刷株式会社. (監修) 今村正之 (編) 田中雅夫・平田公一. VII 内科治療. 3 肝臓転移に対する局所治療. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診断・治療 実践マニュアル 2011. 182-187.
105. 五十嵐久人, 大野隆真, 伊藤鉄英. (株)中外医学社 (編・著) 古瀬純司. 消化管膵神経内分泌腫瘍 消化器がん化学療法ハンドブック2011. 192-204.
106. 五十嵐久人, 伊藤鉄英. (株)金原出版株式会社. (編) 西田俊朗・大津 敦・土井俊彦 (発行者) 古谷純朗. 第1章 血管新生阻害薬の基本的薬理作用/総論. 2. C 血管新生阻害薬一病態の観点から8. トピックス: 膵神経内分泌腫瘍の治療. 血管新生阻害薬のベストマネジメント. 癌治療と副作用対策. 57-60.
107. 平山 敦, 宮川 宏之, 長川 達也, 松永 隆裕, 岡村 圭也, 北川 翔, 長谷川貴. 十二指腸ステント留置術一合併症を回避するための症例選択とUltraflexに対するNiti-Sの優越性について - Jpn J intervene Radiol Suppl. 26 ; Supplement : 30-32, 2011.
108. 平山 敦, 長川 達也, 須賀俊博, 宮川 宏之, 松永 隆裕, 岡村 圭也, 北川 翔, 長谷川貴. 膵癌肝転移の治療. 臨床消化器内科 26 ; 4 : 451-459, 2011.
109. 清水京子, 白鳥敬子. 疫学と危険因子. 臨床消化器内科 26 : 9-16, 2011
110. 清水京子. 膵癌のハイリスクグループ. 肝胆膵画像 13:235-239, 2011
111. 中森正二, 遠藤和喜雄, 大里浩樹, 柴田高, 武田裕, 東野健, 蓮池康徳, 榎谷誠三, 森本卓, 土岐祐一郎, 森正樹, 門田守人. 切除不能進行・再発膵癌におけるUFT先行投与Gemcitabine併用化学療法の多施設共同第II相臨床試験. 癌と化学療法 38(5) : 789-792, 2011.
112. 沼田和司, 杉森一哉, 金子卓, 田中克明. 【最新 超音波診断データブック】 膵. 臨床画像, 2011年4月, 27巻4月増刊号 : 178-183.
113. 伊藤裕幸, 川口義明, 小川真実, 梶原博, 中村直哉, 峯徹哉. 広範な門脈腫瘍塞栓を来した膵尾部退形成性膵管癌(多形細胞型)の一例. 膵臓. Vol. 26 No. 5. 598-602. 2011
114. 木田光広: 【消化器内視鏡「達人の技」胆・膵】 <EUS関連> これが私の観察法・撮影法 超音波内視鏡 ラジアル型 EUS解剖理解のためのトラブルシューティング. 消化器内視鏡, 23(3):542-547, 2011.
115. 伊地知秀明, 志村謙次, 木田光広, 伊佐山浩通: 【胆膵疾患診療の最前線 難治疾患のよりよいマネジメントのために】 胆膵疾患の日常診療 胆膵癌早期発見と長期生存を見据えたストラテジー. 内科, 107(3):505-519, 2011
116. 新名雄介, 肱岡真之, 岩尾梨沙, 五十嵐久人, 伊藤鉄英, 高柳涼一. 各種疾患の腫瘍マーカー 膵癌. 臨床と研究. 88(8)76-80, 2011
117. 新名雄介, 五十嵐久人, 安田幹彦, 石神康生, 中村雅史, 森松克哉, 小田義直, 高柳涼一, 伊藤鉄英. 経過を追えた小膵癌—この所見に気をつけろ!. 症例呈示 糖尿病と膵癌. 肝胆膵画像 13(3)261-267, 2011
118. 伊藤鉄英, 藤森 尚, 中村太一, 麻生

- 暁、中村和彦、五十嵐久人、高柳涼一. 生活習慣と膵癌. 総合臨床. 60(5) 684-689, 2
119. 五十嵐久人、伊藤鉄英、西森 功、大野隆真、中村太一、藤森 尚、新名雄介、肱岡真之、内田正彦、下川雄三、高柳涼一. 特集：神経内分泌腫瘍(pNET)の診断と治療の新しい展開. 神経内分泌腫瘍(pNET)に対するソマトスタチンアナログ療法. 胆と膵. 32(3) 235-241, 2011藤森 尚、伊藤鉄英、五十嵐久人、新名雄介、大野隆真、高柳涼一. 特集：膵・胆道の良性～低悪性度病変. 膵内分泌腫. 臨床消化器内科 26(5)565-573, 2011
120. 五十嵐久人、伊藤鉄英、大野隆真、中村太一、藤森 尚、新名雄介、肱岡真之、内田匡彦、下川雄三、高柳涼一. 特集：膵がん・膵内分泌腫瘍の最近の動向. 膵神経内分泌腫瘍に対する薬物療法. 腫瘍内科 7(2)198-204, 2011
121. 井岡達也、切除不能の局所進行膵癌化学放射線療法の変遷、胆と膵, 32(7), 627-630, 2011
2. 学会発表
1. Ioka T, Ikeda M, Ohkawa S, Yanagimoto H, Fukutomi A, Sugimori K, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Chen J, Mizumoto K, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato S, Ohashi Y, Cheng A, Okusaka T. Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 (GS) versus S-1 versus gemcitabine (GEM) in unresectable advanced pancreatic cancer (PC) in Japan and Taiwan: GEST study. American Society of Clinical Oncology 47th Annual Meeting, Chicago, 2011.6.7.
2. 古瀬純司. 膵癌化学療法の最新情報—S-1のエビデンスとプラクティス. 第97回日本消化器病学会九州支部例会, 第91回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, 久留米市, 2011年6月25日
3. Furuse J. Role of adjuvant and neoadjuvant therapy. ISDS Main Session. Pancreatic neoplasms: up-date 2011. International Surgical Week, Yokohama, 2011.8.31.
4. 古瀬純司. 膵・胆道癌化学療法の最新情報. 第86回中国四国外科学会総会・第16回中国四国内視鏡学外科研究会, 広島市, 2011年9月1日
5. 膵腫瘍に対する細径針による細胞組織診:経皮・経内視鏡アプローチの比較. 松山真人、倉岡賢輔、行澤齊悟、春日章良、尾阪将人、石井浩. 一般口演. 示説. 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市.
6. A randomized phase II study of gemcitabine plus S-1 versus gemcitabine alone in patients with unresectable pancreatic cancer. Y. Matsumura, T. Ikari, H. Ishii, M. Suyama, T. Itoi, Y. Omuro, S. Yano, K. Hanada, Y. Kimura, T. Ukita, Y. Okabe, M. Tani, T. Nakajima. 一般口演. 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市.
7. Y. Omuro, T. Ikari, H. Ishii, M. Ozaka, M. Suyama, Y. Matsumura, T. Itoi, N. Egawa, S. Yano, K. Hanada, Y. Kimura, T. Ukita, Y. Ishida, M. Tani, S. Ohoka, Y. Hirose, S. Hijioka, R. Watanabe, T. Ikeda, T. Nakajima, Japan Clinical Cancer Research Organization. A randomized phase II study of gemcitabine plus s-1 versus gemcitabine alone in patients with unresectable pancreatic cancer. ASCO Annual Meeting, 2011, Chicago
8. 奥坂拓志. (2-S-8【シンポジウム】急増する難治癌(膵癌)対策). 切除不能膵癌の化学療法. 第28回日本医学会総会 2011 東京 2011年4月8日~10日 於: 東京都
9. 奥坂拓志. ミニシンポジウム 座長膵癌に対する全身化学療法. 第97回日本消化器病学会総会. 2011年5月13日-5月15日 於: 東京都
10. 奥坂拓志. モーニングセミナー(スポンサードセミナー: 中外製薬)膵癌の薬物治療. 第97回日本消化器病学会総会. 2011年5月13日-5月15日 於: 東京都
11. Ueno H, Kaniwa N, Sugiyama E, Furuse J, Ishii H, Satoh Y, Yoshida T, Saijyo N, Saito Y, Okusaka T. Effect of cytidine deaminase (CDA)-related biomarkers on overall survival in patients with advanced pancreatic cancer receiving gemcitabine (GEM) monotherapy. 2011 ASCO Annual

- Meeting, June 5-8, 2011, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 29(Suppl): Abstract No.e14645, 2011.
12. Kondo S, Ueno H, Morizane C, Koizumi F, Tamura K, Okusaka T. The association of long pentraxin 3 on prognosis in pancreatic carcinoma patients on gemcitabine-based chemotherapy. (General Poster Session, Tumor Biology), 2011 ASCO Annual Meeting, June 5-8, 2011, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 29(Suppl): Abstract No.10536, 2011.
 13. 奥坂拓志, 池田公史. (ワークショップ 座長) 胆膵癌化学療法の現状と問題点. 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 14. 奥坂拓志. 胆道・膵臓癌. 第18回日本臨床腫瘍学会教育セミナーB. 2011年7月23日. 於: 横浜市
 15. Ueno H, Kouge T, Sakamoto Y, Saiura A, Ishii H, Okusaka T. (ワークショップ) Adjuvant therapy for resectable pancreatic cancer: to develop more effective treatment. (WS-5-6). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 16. Kondo S, Ueno H, Morizane C, Koizumi F, Tamura K, Okusaka T. (一般口演) Long pentraxin 3 is associated with a poor prognosis in pancreatic carcinoma patients on gemcitabine based chemotherapy. (03-011). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 17. Taniyama T, Morizane C, Ueno H, Kondo S, Yamaguchi T, Syoji H, Nakachi K, Ikeda M, Mitsunaga S, Kosuge T, Shimada K, Sakamoto Y, Esaki M, Nara S, Okusaka T. (一般口演 肝胆膵がん(2) 膵がん①) The treatment outcome of chemotherapy for recurrent pancreatic cancer after postoperative adjuvant chemotherapy. (03-008). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 18. Shoji H, Morizane C, Taniyama T, Yamaguchi T, Kondo S, Ueno H, Okusaka T. (一般口演) Thirty-four cases of advanced ampullary carcinoma: experience at a single center. (03-020). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 19. Shiba S, Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Ikeda M, Kondo S, Kosuge T, Shimada K, Yamaguchi T, Hiraoka N. (一般口演 肝胆膵がん(3) 膵がん② その他) One hundred cases of pancreatic endocrine tumors: 20 years of experience at a single center. (03-013). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 20. Ikeda M, Ioka T, Ohkawa S, Yanagimoto H, Mizuno N, Boku N, Furuse J, Hatori T, Funakoshi A, Yamaguchi T, Egawa S, Sato A, Ohashi Y, Tanaka M, Okusaka T. (プレナリーセッション). Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 (GS) versus S-1 versus gemcitabine (GEM) in unresectable pancreatic cancer (PC) in Japan and Taiwan: GEST study. (PL-3)日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 21. Mitsunaga S, Ikeda M, Oono I, Shimizu S, Ueno H, Morizane C, Kondo S, Okusaka T. (ワークショップ) The degree of circulating CRP level predicts the results of GEM-monotherapy in patients with advanced pancreatic cancer. (WS-5-3). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 22. Terashima T, Morizane C, Kondo S, Ueno H, Ikeda M, Saito Y, Shimada Y, Kushima R, Hiraoka N, Kanai Y, Okusaka T. (一般口演) Extra-pulmonary neuroendocrine tumors: An institutional experience of 337 patients at the National Cancer Center Hospital in Japan. (02-103). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 23. Otsuka T, Morizane C, Nara S, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, Shimada K, Kosuge T, Hiraoka N. (一般口演) Gemcitabine monotherapy in patients with recurrent intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas. (03-014). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
 24. 奥坂拓志. (座長) 膵がん治療(7). 第42回日本膵臓学会大会. 2011年7月29日-30日. 於: 弘前市
 25. 山口智宏、近藤俊輔、森実千種、上野秀樹、奥坂拓志. (一般口演 O-98) パクリタキセル／カルボプラチン併用療

- 法を施行した膵原発粘液性嚢胞腺癌の1例. 第42回日本膵臓学会大会. 2011年7月29日-30日. 於: 弘前市
26. 柴 知史、森実千種、奥坂拓志、上野秀樹、池田公史、近藤俊輔、山口智宏、小菅智男、島田和明、平岡伸介. (一般口演 O-51) WHO 新分類を用いた膵内分泌腫瘍 100 例の検討. 第42回日本膵臓学会大会. 2011年7月29日-30日. 於: 弘前市
 27. 奥坂拓志 (座長) 要望演題 1 (R-1~6). 第47回日本胆道学会学術集会. 2011年9月16日-17日. 於: 宮崎市
 28. Shoji H, Morizane C, Taniyama T, Yamaguchi T, Kondo S, Ueno H, Okusaka T. Tyirty-four cases of advanced ampullary carcinoma receiving non-surgical treatment: experience at a single center. The 2011 European Cancer Organisation, September, 23-27, Stockholm, Sweden.
 29. 奥坂拓志. (パネルディスカッション 12 切除不能進行消化器がんに対する治療選択) 切除不能進行消化器がんに対する治療選択. 消 PD12-8) 第53回日本消化器関連学会週間(JDDW2011). 2011年10月20日-21日. 於: 福岡市
 30. 奥坂拓志. (ランチョンセミナー25: 大鵬) 膵癌に対する化学療法、最近の話題から. 第49回日本癌治療学会学術集会. 2011年10月27日-29日. 於: 名古屋市
 31. 奥坂拓志. (特別企画その2 癌ペプチドワクチン療法ガイドランス) Phase I/II 臨床試験. 第24回日本バイオセラピー学会学術総会. 2011年12月1日-2日. 於: 和歌山市
 32. Okusaka T. (General Poster Session B, Fri, Jan 20, 2012. ファイザー治験発表) Phase II study of sunitinib (SU) in Japanese patients with unresectable or metastatic, well-differentiated pancreatic neuroendocrine tumor (NET). (Abstract #381) American Society of Clinical Oncology, The 2012 Gastrointestinal Cancers Symposium.(ASCO-GI), Jan 19-21, 2012, San Francisco, CA, U.S.A.
 33. Shiba S, Morizane C, Ueno H, Kondo S, Yamaguchi T, Ikeda M, Shimada K, Kosuge T, Hiraoka S, Okusaka T. (General Poster Session B) Pancreatic neuroendocrine tumors: 20 years' experience of 100 patients at a single center. (Abstract #179) American Society of Clinical Oncology, The 2012 Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO-GI), Jan 19-21, 2012, San Francisco, CA, U.S.A.
 34. Fukahori M, Kondo S, Yamaguchi T, Sakamoto Y, Morizane C, Ueno H, Okusaka T. (General Poster Session B) Efficacy of gemcitabine as second-line therapy after S-1 therapy failure in advanced pancreatic cancer. (Abstract #248) American Society of Clinical Oncology, The 2012 Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO-GI), Jan 19-21, 2012, San Francisco, CA, U.S.A.
 35. 奥坂拓志. (シンポジウム) NET における分子標的治療薬の適応. 第7回 NET Work Japan 2012年2月18日 於: 東京都
 36. 柴本薫, 福富晃, 安井博史, 小野澤祐輔, 山崎健太郎, 町田望, 戸高明子, 對馬隆浩, 谷口浩也, 朴成和. 膵癌化学療法後の Best Supportive Care の現状. 第49回日本癌治療学会, 2011年10月27日, 名古屋
 37. 福富晃, 奥坂拓志, 池田公史, 大谷悟, 柴山和弘, 田窪孝年, Gansert Jennifer. 転移性膵癌に対するゲムシタビン+Ganitumab(AMG 479)併用第1b相試験. 第49回日本癌治療学会, 2011年10月27日, 名古屋
 38. 木村公一, 松林宏行, 福富晃, 田中雅樹, 滝沢耕平, 角嶋直美, 山口裕一郎, 小野裕之, 佐々木恵子. 当院における膵病変に対する EUS-FNAB の有用性の検討. 第81回日本消化器内視鏡学会, 2011年8月19日, 名古屋
 39. 柳本泰明, 井岡達也, 池田公史, 大川伸一, 杉森一哉, 福富晃, 馬場秀夫, 山雄健次, 上野秀樹, 朴成和, 水元一博, 古瀬純司, 羽鳥隆, 船越顕博, 山口武人, 江川新一, 佐藤温, 大橋靖雄, 田中雅夫, 奥坂拓志. 進行膵癌に対する GEM/TS-1/GEM+TS-1 の第3相試験 (GEST). 第42回日本膵臓学会, 2011年7月29日, 青森

40. 福富晃. 胆膵癌:胆膵癌薬物療法における今年のエビデンス. 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011年7月22日, 横浜
41. 平山 敦、宮川 宏之、長川 達也. 栄養及びドレナージ目的としての PTEG の検討(適応と効果) 第81回日本消化器内視鏡学会総会 2011.4.22 名古屋
42. 平山 敦、宮川 宏之、長川 達也. 膵臓癌肝転移に対する動注療法 JDDW 2011 2011.10.22 福岡
43. 平山 敦、宮川 宏之、長川 達也、松永隆裕、岡村 圭也、北川 翔、賀集剛賢、長谷川貴悪性上部消化管狭窄に対するステント留置術(必要な知識と課題) 2011.5.21 青森
44. 長川 達也、北川 翔、岡村 圭也、岡村 圭也、松永 隆裕、平山 敦、宮川 宏之. 肝内胆管がんに対する対外・腔内照射を併用した放射線化学療法. 第46回日本胆道学会 2011.9.25.広島
45. 長川 達也、奥 大樹、岡村 圭也、岡村 圭也、松永 隆裕、平山 敦、宮川 宏之. 小膵癌の臨床病理学的検討と早期診断戦略. JDDW 2011 2011.10.21 福岡
46. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤巖、尾形佳郎. (ミニシンポジウム5 膵頭十二指腸切除術後 ISGPF grade B,C の膵液瘻防止対策) 当センターの幽門輪温存膵頭十二指腸切除術 (PPPD) 今永法における膵液瘻に対する工夫. 第23回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2011年6月8日-10日. 於: 東京
47. 白川博文、菱沼正一、富川盛啓、尾澤巖、尾形佳郎 (ミニシンポジウム 28 GEM、S-1 導入後の膵癌手術の新展開 ①) 膵癌 borderline resectable 症例の治療経験. 第23回日本肝胆膵外科学会学術集会 2011年6月8日-10日. 於: 東京
48. 富川盛啓、菱沼正一、白川博文、尾澤巖、尾形佳郎 (一般講演) 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術 (PPPD) 今永法における安全な膵切除と吻合法—われわれの工夫とその成績—. 第66回日本消化器外科学会総会 2011年7月13日-15日 於: 名古屋市
49. H Shirakawa, Y Sasakura, S Hishinuma, T Moriaki, I Ozawa, Y Ogata, S Igarashi. Results of total pancreatectomy for pancreatic adenocarcinoma. International Surgical Week 2011, August 28-September 1, Yokohama, Japan.
50. 白川博文、菱沼正一、富川盛啓、尾澤巖、尾形佳郎 (一般口演) 膵頭十二指腸切除術今永法における膵空腸吻合部ドレーン留置の工夫. 第38回日本膵切研究会 2011年8月26日-27日 於: 久留米
51. 白川博文、菱沼正一、富川盛啓、尾澤巖、尾形佳郎 (要望演題口演) 当センターにおける膵癌 borderline resectable 症例の治療成績. 第73回日本臨床外科学会総会 2011年11月17日-19日 於東京
52. 須藤研太郎、山口武人、原太郎、中村和貴、傳田忠道、廣中秀一、相馬寧、新井裕之、多田素久、太和田勝之、三方林太郎、露口利夫、石原武. 進行膵癌に対する化学放射線療法におけるメタリックステントの安全性に関する検討. 第92回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2011年6月11日, 東京.
53. 須藤研太郎、山口武人、中村和貴、傳田忠道、原太郎、廣中秀一、相馬寧、趙明浩、貝沼修、山本宏、幡野和男、太和田勝之、多田素久、三方林太郎、石原武. 局所進行膵癌に対する集学的治療の検討. 第9回日本臨床腫瘍学会, 2011年7月22日, 横浜.
54. 北川善康、山口武人、須藤研太郎、中村和貴、原太郎、傳田忠道、中村奈海、廣中秀一、三梨桂子、相馬寧、貝沼修、趙明浩、朴成進、山本宏. 化学療法施行後根治切除を行い得た局所進行膵癌の1例. 第42回日本膵臓学会大会, 2011年7月29日, 青森.
55. 須藤研太郎、山口武人、中村和貴、原太郎、傳田忠道、廣中秀一、多田素久、太和田勝之、三方林太郎、趙明浩、貝沼修、山本宏、幡野和男、石原武. 局所進行膵癌に対する非切除治療の検討. 第42回日本膵臓学会大会, 2011年7月30日, 青森.
56. 原太郎、山口武人、石原武. 抗腫瘍療法時代の進行膵癌に対する胆管ステントイング —First stent の選択: CMS か UMS か?—. 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 2011年8月17日, 名古屋.